

# 学力向上アクションプラン(津久見市)

## 目標及び指標

### 【目標】

- |   |  |
|---|--|
| <p>① 児童・生徒の学力向上に係る目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 大分県学力定着状況調査、全国学力・学習状況調査において、全教科で全国平均を上回る。</li> <li>2 低学力層の児童生徒の数を28年度の80%以内に減少させる。</li> <li>3 津久見市学力調査において、全学年・全教科で全国平均を上回る。</li> </ol> | <p>② 学力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 市の学力向上施策に基づいた統一した取り組みの推進。</li> <li>2 管理職・教務主任・研究主任・教科学年部を核とした校内学力向上推進体制を確立する。</li> <li>3 PDCAサイクルに基づいた実効性のある学力向上推進プランを各校で確立する。</li> <li>4 授業改善に向けての短期的なPDCAサイクルを確立する。</li> <li>5 授業規律および学習規律等の校内での統一化を図る。</li> </ol> |
|---|--|

### 達成指標

### 取組指標

- 大分県学力定着状況調査、全国学力・学習状況調査で、全ての教科で全国平均を超えた学校数  
小(3/5・全国4校)、中(2/3)
- 津久見市学力調査において、全学年・全教科全国平均を超えた学校数  
小(3/5)、中(2/3)

- 全教員が授業のゴールを意識した授業実践のために、「めあて」と「振り返り」、「課題」と「まとめ」のプレートを使った授業を毎日行う。
- 問題解決的な展開の授業を、全教員が学期に一回以上は行う。
- 学力向上支援教員・習熟度別指導教員の公開授業に、全教員が必ず2回以上は参加する。

- 低学力層の児童生徒の率(正答率40%未満)
  - ・県調査は、各教科とも正答率40%未満の児童の割合が全県を下回る。
  - ・全国調査はA・B問題とも、28年度の津久見市小中総数(40%未満の正答率)の80%以内
- 全国学力・学習状況調査の平均正答率  
全教科標準化得点100以上

- 習熟度別指導教員配置校においては、全指導時間数の80%以上は習熟度別指導を行い指導法を研究する。
- 全国学力・学習状況調査B問題を取り入れた授業を、全担当教員が3回以上行う。
- 夏季休業中5日以上以上の補充学習と定期的な放課後学習指導をすべての学校で行う。

- 各校の児童生徒の授業評価において、「授業がわかる」と答える児童生徒の割合  
小学校 90%  
中学校 85%

- 「授業改善の5点セット」に基づき授業改善の取り組みが組織的に行われている学校の割合 100%
- 全学校がPDCAサイクルに基づいた実効性のある学力向上推進プランを作成し、学期ごとに検証を行い、教務主任会議において報告と協議を行う。(年3回)
- 児童・生徒による授業評価に基づいた検証・改善研修を学期に一度開催し、授業改善に活かしていく。

## 行動計画

### ①「中学校学力向上対策3つの提言」の実施に関して

1. 学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底
  - (1) 生徒指導の三機能を意識した問題解決的な展開の授業を充実させるとともに、習熟度別指導を積極的に導入する。
    - ・授業改善5点セットの内容充実と授業改善計画に基づくPDCAサイクルの活性化を図る。
    - ・言語活動を授業のメインに据えた、新大分スタンダードの授業実践を組織的に行う。
    - ・数学・英語を中心に習熟度別指導を積極的に取り入れ、習熟度別指導推進教員の「公開授業」をモデルにして、習熟度別指導の効果的な進め方についての理解を深め、実践につなげていく。
  - (2) 教科の壁を越え、全ての教科に共通した授業改善の取組内容を設定し、その視点に基づく互見授業授業研究を実施する。
    - ・校内研修で、各教科に共通した目標や取り組み内容・指標等を設定し、授業改善シートや生徒による授業評価をもとにして、組織的に授業改善に取り組んでいく。
    - ・学年部や教科部の授業研究が組織的かつ計画的に行われるよう、具体的な年間研修計画を作成する。
  - (3) 「色と言葉」「色とサイエンス」の教科融合型学習開発に向けての取組の推進。
2. 学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築
  - (1) 小規模校は、校内研修の枠で、近隣の学校と合同教科部会をもち、指導案や評価問題、教材の作成等を行う。
    - ・習熟度別指導推進教員の公開授業や教科部会ごとの授業研究会を中心に授業研究会を開催し、教科指導力の向上に努める。
    - ・先進地視察研修を行い、「魅力ある授業や学級づくり」について学ぶ。(国語・英語・数学)
    - ・市の学力向上に係る研修会における教科別分科会での指導案検討と授業の実施。
  - (2) 複数の教科担任がいる学校は教科担任の「タテもち」や日課表・週時程表に位置づけた教科部会の実施により、相談や切磋琢磨できる環境を作る。
    - ・校内研修の中に教科部会研修を取り入れ、各教科の授業力向上をめざす。
    - ・国語・数学を中心に生徒や学校の実情に応じて「タテもち」授業を推進する。
3. 「生徒と共に創る授業」の推進
  - (1) 生徒による授業評価を実施し、それを授業改善に反映する。
    - ・下記の3点において、生徒や学校の実態に応じた授業評価を実施する。
      - (ア) 授業者についての評価
      - (イ) 生徒自身についての評価
      - (ウ) 学習集団についての評価
  - (2) 学校が目指す授業像を生徒と共有し、それに向かう学級集団としての目標を設定させ、適宜振り返り活動を行う。
    - ・学校が推進する授業モデル(スタイル)を生徒と共有し、生徒が到達目標や学ぶ目的、学び方がイメージできるようにする。
    - ・どの教室でも目指す授業像を意識できるように、イメージ図や合言葉を掲示し、教職員と生徒の学びへの共有化を図る。

### ②小学校の授業改善の取組について

- 管理職による授業観察シートを活用した日常の授業観察ならびに授業改善に向けた事後指導を推進する。
- 各校校内研修において、授業改善5点セットの内容充実と授業改善計画に基づくPDCAサイクルの活性化を図り、言語活動を授業のメインに据えた、新大分スタンダードの授業実践を組織的に行う。
- 児童による「授業評価シート」を導入し、主体的な学び、対話的な学びを中心に据えた授業改善に努める。
- 学力向上支援教員を中心に、思考力・判断力・表現力を高める授業づくりを研究・推進する。
  - ・「津久見市授業モデル」を参考にした単元計画ならびに本時学習展開を推進する。
  - ・各学校において、校内研修を兼ねて、学力向上支援教員の公開授業を行う。
  - ・各校の校内研修での指導案審議に「津久見市学力向上PT」として参加し、指導・助言を行う。
- 複数学級の学校を中心に「教科担任制」を取り入れた授業実践に取り組む。
- 中学校の英語学習の充実を図るために、市内の小学校外国語部会での提案授業や中学校英語教諭の小学校乗り入れ授業等を計画的に行っていく。
- 各校において、学びに向かう体制づくりを構築する。(学習規律・学級集団づくり等)(ハイパーQUの活用)
- 学習プリント、ワークシート、活用問題対策、家庭での課題プリント等の各種用紙を整理棚等に配列し、活用しやすいような学習環境づくりを学年部・研修部等で連携して行う。
- 市の学力向上に係る研修会ならびに市教育研究協議会の各教科部会などで、新大分スタンダードに基づく授業展開を相互に審議し合い、実践・検証していく。

- 学校図書館を活用し、司書教諭・図書担当教員・図書支援員と連携し、読書量を増やす取組や、各教科で問題解決学習を実践していく上での図書・資料等の整備充実を図っていく。(図書支援員のスキルアップ研修の実施)
- 市の学力向上に係る研修会での各学年部別分科会での指導案検討と授業実施。

### ③家庭・地域と連携した学力向上の取組について（若手教員研修：生徒指導・集団づくり）

- 「放課後学習クラブ」(講師は地域人材活用)を小学生希望者を対象に、隔週水曜日に実施する。
- 土曜日等の教育活動の充実を図る体制を確立する。
  - ・月1回、第一土曜日を原則として、計8回程度の土曜授業を開催する。(小中：全児童生徒対象)
- 「放課後学習クラブ」(講師は地域人材活用)を小学生希望者を対象に、隔週水曜日に実施する。
- 「土曜寺子屋つくみ塾」(講師は地域人材活用)を小学生を対象に全小学校にて月1回実施する。
- 長期休業中に「夏の学習クラブ」「春の学習クラブ」(算数数学4日間)を実施する。
- 学習サポーターによる学習支援(総合的な学習の時間・英語活動・宿題、課題等の〇つけなど)の充実。
- コミュニティスクールを中核とした地域人材活用の充実。(ゲストティチャー他)
- 地域企業と連携した理科教育の推進ならびに、ふるさと教育の一層の充実。(扇子踊り・鉱山見学・河津桜)  
<津久見高校との連携>
- 英検チャレンジ対策講習会の実施。(津久見高校の英語教師ならびに普通科の生徒による英検チャレンジサポート学習会)      ○イングリッシュサマースクールの開催